

なかま

Vol.3 秋号



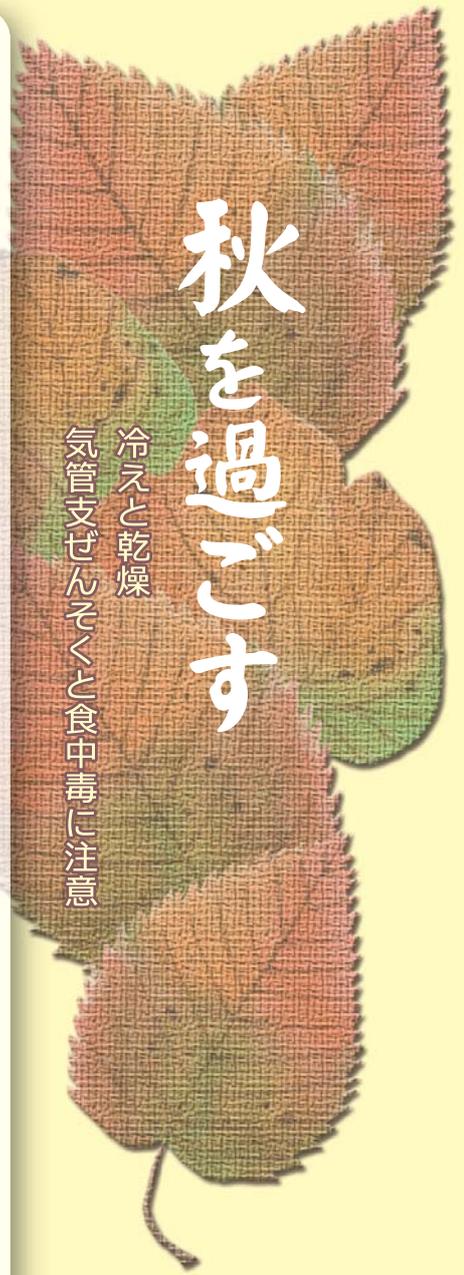
回復期リハビリテーション病棟スタッフステーションにて

- Contents
- ・コラム『秋を過ごす』
 - ・呼吸器リハビリテーション
 - ・新入職員の想い
 - ・病院機能評価認定



秋を過ぎす

冷えと乾燥
気管支ぜんそくと食中毒に注意



熊本では、藤崎宮秋の例大祭の時期になると秋の訪れを感じる方も多いのではないのでしょうか。この時期を境に、朝晩の冷え込みが強くなってくるように思います。

食欲の秋、勉強・スポーツ・読書の秋…。秋は「何をするにもうつつけ」でいいことばかりの季節のようですが、自然のサイクルが「暑」から「涼」そして「燥」の季節に変わっていく時期ですので、気管支ぜんそくやアレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎などアレルギーに関連する疾患の症状が悪化する季節でもあります。

気管支ぜんそくの発作は一年を通して起きますが、季節の変わり目である秋の9月から10月が最も多く、次いで春の4月から5月となっています。気温、気圧、湿度など気候・気

象変化、さらにこうした変化に伴う

ダニ（主要アレルギーは死骸）、カビ、そしてブタクサ・ヨモギの花粉などのアレルギーの量的変化などが原因と考えられます。なお、雨の降る前日で

気圧が低下した時や前日より5℃以上気温が低下した時に発作が出やすいこともわかっています。

そして、意外にも秋に多いのが食中毒です。気温・湿度の高い梅雨の時期やノロウイルスによる感染性胃腸炎が多い冬場に多いように考えがちですが、実は1年のうちでは10月が一番多く、9月もふくめて秋は冬場と同じくらいに食中毒の発生件数が多いのです。この時期にはサルモネラ菌や腸炎ヒブリオ菌、ウエルシ菌などの細菌によるもの、そしてキノコやぶ

ぐなどの食べ物に含まれる毒素によ

る食中毒が流行しているようです。

その他、秋バテ、風邪、ブタクサ・ヨモギなどによる花粉症、季節性うつ、更には、空気が澄んできて紫外線が目につき易くなるために白内障が悪化するなど、冬に向かう前に体調不良を生じることが増えてきます。

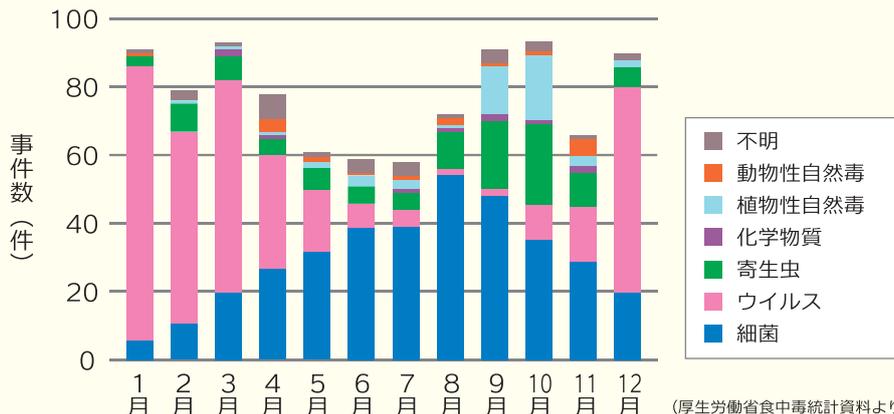
体調の変化を感じたら、38〜40℃くらいのぬるめのお湯に好きな香りの入浴剤を入れてお風呂でリラックスしたり、それこそ健康状態と相談しながら、おいしい料理やお酒に舌鼓を打つたり、心身両方のストレスを和らげる工夫をしましょう。

そして11月中旬から12月いっぱいを目途にインフルエンザワクチンを接種して、インフルエンザの流行期に備えましょう。



院長 森 孝志

病因物質別の食中毒月別発生件数（平成 25 年）



呼吸器リハビリテーション

呼吸器チームの取り組み

呼吸器リハビリテーションって??

呼吸器リハビリテーションとは、呼吸器の病気によって生じた障害を持つ患者さまに対して、可能な限り機能回復と維持を図り、患者さま自身が自立して日常生活を送ることができるよう、継続的に支援していくための医療のことをいいます。

対象となる疾患は??

- 重篤な肺炎など急に生じた病気や肺損傷
- 慢性閉塞性肺疾患（COPD）など、たばこによる慢性的な病気
- 間質性肺炎や肺線維症などの慢性的な病気
- COPD や間質性肺炎などの慢性的な病気が急激に悪化した場合
- 気管切開や人工呼吸器管理を受けている場合
- 肺の手術など開胸術後の場合



退院後の日常生活を想定し
訓練を行います

呼吸器の病気になると、激しく動いた時の息切れなどで精神的不安から不活動になり、筋力・体力が低下します。それにより動いた際の呼吸困難感を助長させ、さらに不活動になるという悪循環に陥ります。

呼吸器のリハビリテーションには、息切れの軽減や筋力強化・運動耐久性が向上し、この悪循環を緩和する効果が期待されます。

私たちは、まずこの不活動の悪循環を断ち切り、日常生活や職場への復帰を目指します。さらには在宅生活の充実、社会参加、趣味およびレジャーの再開・開始を目標に介入します。

この目標を達成するためには一つの職種が個々に治療を進めていても効果は期待できません。

様々な面からアプローチ



呼吸器リハビリテーションは、原則として他職種で協力し合い医療を提供する『包括的呼吸器リハビリテーション』と言われています。

当院でも、入院されている患者さまを中心として医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、栄養士、薬剤師、医療相談員、介護士で適宜情報交換を行い、包括的に治療を行っています。平成25年度には呼吸器チームを編成し、チーム以外のスタッフにも治療方針や内容がわかるよう、慢性閉塞性肺疾患（COPD）と間質性肺炎に対する基本的な治療プランを立案し、プランに沿って医療を提供しています。

退院間近になると、患者さまのご自宅を訪問し環境調査と動作確認を行います。その結果を踏まえて酸素を取り扱う業者やケアマネージャー、在宅医療に関わるスタッフと連携をとり、面談やカンファレンスを開催し情報交換を行っています。そして、外来通院して頂きながら酸素療法などの診療やリハビリ等を継続的にを行い支援しています。



退院前のカンファレンス風景

平成とうやの新人さん！

入職して半年 新入職員の想い

本年4月に入職したのは21名 笑顔の素敵なお名前を8名をご紹介します



看護師

原田 亜祐香（看護師）
回復期リハビリテーション病棟（4病棟）

私は、4月に平成とうや病院に入職する時「毎日笑顔で患者さまとコミュニケーションを取っていく」という目標を立てました。最初は、うまくコミュニケーションも取れずにはじめましたが、徐々に患者さまだけでなく、ご家族との関わりも増えていきました。そんな中で、退院する患者さまのご家族から「原田さん、いつも一生懸命やってくれてありがとうね。」と言われたことがあり、素直に心から嬉しく感じ、看護師をやってよかったと思いました。

私は看護師としてまだまだ未熟ですが、笑顔を忘れずに患者さまやご家族と接していきたいです。そして、患者さま一人一人に合わせたケアが出来る元気な看護師を目指したいと思います。

安田 祥子（看護師）
一般病棟・地域包括ケア病床（3病棟）

はじめはわからないことばかりで、不安と緊張の毎日でした。しかし、先輩方の熱心なご指導と温かいサポートを受けながら日々知識を深め看護業務を行っています。新人看護師はプリセプター制度を取り入れたマンツーマンの指導のもと看護業務や看護技術を学ぶことができます。わからないことがあればその都度教えていただき、不安なことがあれば相談ののっていただいています。笑顔と丁寧な言葉遣いを心がけて日々がんばっていきます。



薬剤師



大村 祐美子（薬剤師）

入職して6ヶ月が経ちました。服薬指導の時、最初の頃は少し緊張していましたが、患者さんもお家族の方も明るく話してくれる人が多いので、今はとても楽しく話をできています。

まだわからないことも多いですが、先輩方がとてもやさしく教えてくれるので、少しずつ覚えながら頑張りたいです。そして、周りの人から信頼される薬剤師を目指していこうと思います。

前田 あかね（医療事務 / 入院担当）

私は7月に入職したばかりです。まだまだわからないことが多く、毎日が勉強です。入職して最初に感じたことは皆さんとても明るく気さくな方ばかりだなと思いました。職場の雰囲気が良く、新人の私でも毎日楽しく仕事ができています。わからないことも丁寧に教えて下さるので、とても安心してます。

まだまだ皆さんにご迷惑をおかけすることがあると思いますが、今後は一日でも早く、今以上に仕事を覚え、皆さんのお役に立てるように頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。



医療事務

言語聴覚士

柴田 麻美 (言語聴覚士)

4月に入社し早6ヶ月が経ちました。最初は何もかもが初めてで覚える事だけで精一杯でしたが、先輩方に1つ1つ丁寧に教えて頂き、少しずつ出来る業務が増え、やりがいも出てきました。臨床でリハビリが出来るようになった嬉しさの反面、自身の未熟さを実感しています。まだまだ課題はたくさんありますが、先輩方の後姿を見て1つずつ確実に技術を習得していきたいです。また患者さまが必要とするリハビリを行えるよう、日々責任感を持って取り組みたいと思います。



作業療法士

村上 雅一 (作業療法士)

入社してから半年が経ち、先輩方のご指導の下、業務内容も徐々にではありますが、把握出来るようになりました。今でも反省することは多く、自分の知識と技術不足を実感していますが、先輩方に助言・アドバイスを頂いたり、同期と切磋琢磨しながら毎日を過ごしています。指導して頂けることに感謝し、日々の業務に精進していきたいと思っています。そして、患者様に喜んでいただけるリハビリを提供できるよう日々精進し、一日一日を過ごしていきます。

木村 結未 (社会福祉士 / 医療ソーシャルワーカー)

今年5月より症例を持ち始め、院内・外多くの方々との関わりを持たせていただいています。ソーシャルワーカーとして、社会人として自らの力不足を感じる場面が多くありますが、ユニークな同期や頼もしい先輩方に支えられながら日々駆け回っています。

どの部署にとっても心強い存在となれるよう、これからも支援に関わる人々と丁寧に向き合うことを心がけて業務に励んで参ります。



医療ソーシャルワーカー

蔵原 美幸 (医療ソーシャルワーカー)

平成とうや病院に入職し半年が経ちました。初めは緊張でいっぱいでしたが、多くのスタッフの方にサポートしていただきながら、病院の雰囲気にも慣れてきたと思います。まだまだ分からないことばかりですが、連携室の先輩方をはじめ病院スタッフの方々に学びながら、頑張っていきたいと思っています。

働く環境を考える

ワーク・ライフ・バランス
ワークショップに参加しました



当院では、平成25年度より日本看護協会のワーク・ライフ・バランス推進事業に参画しています。

本年9月3〜4日、熊本県看護協会で行われたワークショップに、看護部長、師長、主任、医療ソーシャルワーカー、事務職員で参加してきました。

1日目は事務部長目線でのワーク・ライフ・バランスの取り組みについて、当院の川野事務部長の講演がありました。また他の病院がどのように職員の希望を取り入れ、働きやすい職場

をつくっているのか等も聴くことが出来ました。

2日目のワークショップでは、事前のインデックス調査を基に各病院が自分たちの働く環境について改めて問題点を洗い出し、その原因や対応策を考えました。また今後どのように取り組んでいくのかを話し合い、病院ごとに発表を行いました。

様々な面から働きやすい環境を整えていくことを認識した2日間でした。



病院見学会開催（LTAC研究会 第2回大会）



9月28日に済生会熊本病院で開催された第2回LTAC研究会に先立って、前日の27日には済生会熊本病院と当院の見学会が催されました。

定員60名で締め切り予定だったのですが特別参加があり、全国から来られた合計70名の先生方を8つのグループに分けてご案内することにになりました。

写真は、厚生労働省、熊本県や大学教授、当研究会の幹部を含むグループの方々です。

翌28日の第2回LTAC研究会は、済生会熊本病院外来がん治療センター棟4階のコンベンションホールにて、午前9時30分から午後4時10分までのスケジュールで開催されました。私は、最後の『熊本における医療需要予測と病床機能分化・連携』というタイトルのシンポジウムで、済生会熊本病院との連携を中心に話させて頂きました。



2025年問題を見据えて、今後の医療をどうしていくか。これからの大きな変革の流れの中で、高度急性期病院、急性期病院や慢性期の病院などの連携を平成とうや病院として今後どう発展させていくべきか。地域医療連携の輪の中での当院の役割を果たすべく、今後も職員一丸となつて頑張っていきたいと感じた2日間でした。

森 孝志（院長）



※LTAC(Long Term Acute Care：長期急性期医療)

9月28日熊本で開催された「LTAC研究会第2回大会」は「熊本から考える新たな地域医療連携のかたち」をテーマに、将来の地域医療連携のかたち（仕組み）、LTACのかたち（機能）を考えることを目的として開催されました。（研究会ホームページより）

ハイデルベルグ大学からの

研究調査訪問



前列左より
熊本市市民病院主任看護師 高瀬正樹様、
Dr. Jivanta Schottli (UNIVERSITÄT HEIDELBERG)、
東アジア共生文化センター 辛 教燦様 (通訳)
後列左より
島森 万二 (法人副本部長)、森 孝志 (院長)、
熊本市市民病院診療部長 辻 明徳先生

9月3日、ドイツハイデルベルグ市のハイデルベルグ大学から当院へ研究調査訪問がありました。

熊本市と友好都市である関係で、熊本市市民病院に国際比較調査の協力要請があったようで、熊本市市民病院、熊本大学医学部附属病院、済生会熊本病院、そして当院の4病院を訪問することになったようです。

テーマは『病院マネジメントに関する国際比較研究』組織とマネジメントコンセプトの変化』(ハイデルベルグ大学社会学研究科ポールマン教授)で、約1時間のインタビュー形式でした。個人のキャリアのこと、医療のこと、マネジメントから始めて、事業承継、企業体での病院経営、そしてワークライフバランスについてなどの質問があり、有意義な時間を過ごしました。



スポーツ楽しんでます



清和会では、近隣の田迎小学校体育館や市総合体育館などをお借りして、仕事外でも職種関係無く、和気あいあいとバレーやバドミントンなどを楽しんでいます。地域や県内の病院対抗の大会にも参加しており、優勝目指して練習に励んでいます。

近く開催されるものでは、11月3日(月)熊本県病院対抗バドミントン大会(会場:益城町総合体育館)に出場する予定です。応援よろしくをお願いします。



管理栄養士の一口メモ 体を温める鍋料理



すき焼き

ビタミンCやビタミンB、カリウムなどは水溶性の栄養素の代表選手。溶け出した野菜の栄養分をしっかりキャッチできるのも鍋や煮物のいいところです。

寒くなってきたら食べたくなる、鍋料理の代表すき焼き。この料理には体を温める冬野菜がたくさん入っています。中でもネギは、すき焼きに入れると多量に美味しく食べることができ、特有の辛味成分アリシンには、血行をよくし体を温める作用があります。葉の部分には、カロチンやビタミンCが含まれ、風邪予防に効果があります。

また、具材の牛肉と焼き豆腐・卵に含まれる良質のたんぱく質は自律神経と体温調節の働きを正常にするため、体温をゆっくりに上昇させ体の中から温める効果があります。

そして、おいしい食事は新陳代謝を高めるといことが言われますが、家族や友人達と楽しく会話をしたり笑ったりしながら食事を楽しむことで代謝が上がります。一人で食事をするよりたくさんのお熱を作り出します。みんなで鍋を囲みながら卓上で味を作っていくすき焼きは、心も体も温まる料理です。



日本医療機能評価機構の

認定病院になりました



当院は本年6月18日から19日の2日間、にわたり「日本医療機能評価機構」の審査を受けました。これは、医療の質と安全の向上を目的として、一定の基準に基づき中立的な立場から医療施設を評価するものです。

結果はS評価（秀でている）が2個、A評価（適切に行われている）が75個と高い評価を頂き、平成26年9月5日をもって認定となりました。なかでも医療関連感染制御に向けた取り組みや、抗菌薬の適切な使用については高い評価を頂きました。

これからも業務の見直し・改善を行い、3年後の更新に向けてさらに良い病院となるよう努力してまいります。

平成とうや病院データ

病院診療情報

(平成26年6月～8月)

- ・外来患者延数 1,653人 (一日平均 25.8人)
- ・入院患者延数 8,612人 (一日平均 93.6人)
- ・一般病棟平均在院日数 19日



診療科目 ▶▶ 内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・神経内科・リハビリテーション科
 受付時間 ▶▶ 午前 8:30～11:30 午後 13:00～17:30
 診療時間 ▶▶ 午前 9:00～12:00 午後 13:30～18:00

お問い合わせ・外来予約は ▶▶ **096-379-0108**

〒862-0963 熊本市南区出仲間8丁目2-15
 E-mail:heisei@tohya.or.jp ホームページ:http://www.tohya.or.jp

【外来担当医師表】

平成26年10月10日現在

	月	火	水	木	金
午前	循環器内科・内科	呼吸器内科・内科	呼吸器内科・内科	リハビリテーション科	呼吸器内科・内科
	齊藤 忠興	森 孝志	森 孝志	依光 茂太 (第1・3週)	森 孝志
	内科	リハビリテーション科	神経内科・内科	呼吸器内科・内科	神経内科・内科
	東 修一	依光 茂太	岩谷 奈緒	永野 潤二	岩谷 奈緒
	リハビリテーション科		消化器内科・内科		リハビリテーション科
	兒玉 香菜子		合島 雄治		兒玉 香菜子
内視鏡	合島 雄治	合島 雄治	合島/東洋	合島 雄治	合島 雄治
エコー	熊本大学		東 洋一郎		
午後	消化器内科・内科	消化器内科・内科	消化器内科・内科	循環器内科・内科	呼吸器内科・内科
	合島 雄治	合島 雄治	東 洋一郎	齊藤 忠興	熊本大学
	循環器内科・内科	呼吸器内科・内科		内科	リハビリテーション科
	熊本大学	永野 潤二		東 修一	兒玉 香菜子 (15時まで)
	リハビリテーション科				
	兒玉 香菜子				

- 診察券に記載されている予約日をご確認の上、ご来院ください。
- 企業様の健診も行っております。●産業医お引き受けいたします。



最寄りのバス停	田迎小学校前(旧浜線沿い)	徒歩 5分
	田迎 (東バイパス沿い)	徒歩 1分
	幸田市民センター入口	徒歩 5分
JR	南熊本駅または平成駅	車 10分

平成とうや病院

外来のご案内とアクセス

1. 公平で適正な医療を受ける権利
2. 医療上の情報、説明を受ける権利
3. 十分な説明のもと自分自身の治療を決定する権利
4. プライバシーが保障される権利
5. 個人の尊厳が保障される権利

患者さまの権利

1. 私たちは、すべての職種において、基本理念の理解と実践に情熱を持って取り組み、患者さまへの質の高い医療サービスの提供、職員の職場環境の向上を目指します。

2. 私たちは、地域の皆さまが安心して過ごしていただけるよう、日々の研鑽に励み技術と知識の習得に努め、信頼される病院作りを目指します。

3. 私たちは、環境に配慮したエコを心がけるとともに、災害時にもハード、ソフトの両面で医療を提供できるように病院機能を維持します。

4. 私たちは、良質な医療サービスを提供するために健全なる経営活動を行い、安定した経営基盤を構築します。

基本方針

IDENTITY 清和会 理念
 YOUR 個人の尊重
 あなたのために

- 【医療法人清和会】
- 水前寺とうや病院
内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・神経内科・リハビリテーション科
 - 老人保健施設シルバーピア水前寺
 - 在宅ステーション水前寺
居宅介護支援事業所
訪問介護事業所
訪問看護事業所
訪問リハビリテーション事業所
通所リハビリテーション事業所
地域交流推進室
 - 特定施設シルバーピアグラウンド通り
 - 熊本市高齢者支援センターささえりあ江湖

編集後記

9月末まで当院で働いていた齊藤薬剤科長と岩崎栄養科長が水前寺とうや病院へ異動となりました。最後の挨拶後の花束贈呈に花束があつた少し間に合わず、その後届いたばかりの花束を、院長が抱えて部署まで届けに行きました。今までに無いハプニングでしたが、当院の立ち上げ以前から院長と一緒に頑張ってきたこともあり、受け取られたお二人の笑顔は格別でした。(平成とうや病院 広報部会)